

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370300935		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	岡山県津山市東一宮22-10		
自己評価作成日	平成28年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370300935-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370300935-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

四季折々の行事、外出では普段の生活とはまた違う喜びを感じていただき、日常では利用者の生活がより豊かになるように利用者同士、御家族、地域の方、医療機関、職員が協働しています。一人の方が歌を唄えば二人、三人と唄いだし拍手が沸き起こり、ソファで一人がウトウトしていれば、その横で肩を寄せもう一人がウトウトしている。和やかで微笑ましい光景が日常的に見られます。また新しい提案の実現に向けての取り組みも行い、平成27年度のお餅つきでは「オープンハウス」と題し、地域の方にも参加していただきました。参加の呼びかけが限られた方になってしまうなど、今後の「オープンハウス」の課題となりましたが、グループホーム敬愛ならではの発信を地域へ向けて行い、発信したからこそ得られるものを大切に、活かして行きたいと思っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

このホームの介護ケア面においては、「利用者と職員の心の交わりの大切さ」を主眼に置いた「心を磨き、心を育て、心の目で見える」事を介護の視点に置き、職員の感性と発想力を育てることに指針を置き、全職員が真摯に取り組んでいる。以前に難語と不穏行動の強かった利用者が2年目に訪問すると素晴らしく明るい、穏やかな表情で過ごしている成果を見ることが出来た。グループホーム敬愛は市所有の憩いの場「グリーンヒルズ」の西側の平地の閑静な新興住宅街の中にある。講演や商業施設等が整備されており、この環境メリットはホームの周辺を一巡するだけでも安心、安全な日常の外出支援のサービスにつながり実現している。又、運営推進会議から発信する様々な情報によりホームと地域との密着が実現している。昨年12月には「オープンハウス」を立ち上げ、地域住民と一緒に行事を行い、今後も年3回位の頻度で開催し、地域密着型サービス事業所としての社会的役割を担っていくと頑張っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念「3つの心」を管理者、職員が日々大切にし、育み続けられるように話し実践している	全職員が「心を磨き、心を育て、心の瞳で見る」事を理念に掲げ、職員が共通認識を道実践していくための具体的内容のチェックシートを作成し、半年に一回個人面談により評価を行っている。代表経営者の信念と心情が他所では見られない様々な手法で全職員に浸透し、熱心な職員の働きぶりと利用者の落ち着いた暮らしぶりが見えた。	職員が利用者に気配り、観察する指針であり、これは大切な事でもあるが、もう一つ踏み込んで利用者に接する時、相手の心を広げてあげる心の交わりも同時にしてもらおうと更に良いと願う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や外出の際に近所の方と挨拶を交わしたり、敬愛新聞に地域を紹介するコーナーを設け利用者と職員で取材に行き交流を図っている	年中行事の最大イベントで約300人が参加する「敬愛まつり」は地域に根差しており、波及効果をもたらしている。昨年12月に「オープンハウス」を立ち上げ、ホームと地域住民が一緒に行事を楽しみ、今後も年3回実施を目標にしている。地域の子供から大人まで幅広い層を対象にする視点を持っており、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っているホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ホームの行事で地域の方々にホームでの生活、支援の方法を見てもらった上で認知症について話す機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの活動報告や研修報告勉強会を行い、地域の方から意見を頂き、その意見を全職員に伝え、今後の活動に活かせるようにしている	ホームを取り巻く5つの町内会長、民生、愛育、行政、法律事務所など識者を委嘱し開催されている。毎回十分に精査された会議資料が提供され、出席委員は平均して良く意見を述べており、詳細に記録して管理されている会議録を閲覧させてもらい、このホームの運営方針と実践のすべてを理解する事ができた。会議場でホームが評価されることが職員お励みになり、利用者の幸せにつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には、わからない事は聞き指導、アドバイスをもらっている	運営推進会議には毎回担当職員が出席しているのでホームの運営についてよく理解してもらっている。良好な信頼関係と協力関係が成立している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを実践するために職員全員が勉強し正しく理解し心がけている	車椅子利用者は移動時の手段としてのみ車椅子を使用し、食卓で過ごす時は利用者全員が身長に適した指定の椅子を使用し、立ち上がり能力のある利用者の立ち上がりを妨げない配慮を行う等、ケースバイケースで事例を持ち寄り、常に話し合っ共通認識を深めて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法も勉強をし、虐待が起こり得る背景を話し合い、意見交換をする場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルに職員全員が目を通して 成年後見制度についてはまだ理解不足なので研修、勉強会の機会を作ります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者、家族に重要事項の説明確認を行っている。疑問がないか尋ねながら進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の思いを聞き、その思いを職員全員で共有し思いを叶えられるように努力している。家族とは手紙、電話、面会時に蜜な関係を作り、希望、意向を言ってもらい、希望、意向に添えるように努力している	年2回の家族会を持っている他、ホームの行事には家族を招待する等出来る限り家族と接する機会を多く持ち意見を聞いている。家族から服薬等への関心が高いので様々な質問、要望に応えられるよう知識を身につけて、家族の要望に沿った信頼関係を築いていきたいと管理者は話している。ホームを退職した職員が自分の親を「信頼のおけるこのホームに入れたい」と実現させている事例を聞くことができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員一人ずつ発言をする時間を設けている他、個人面談を行っている	各事業所を包含した組織図があり、代表者以下、ホーム長、主任、リーダー等の指導者のポジションが確立している。経営者(トップ)会議、リーダー会議、ケアを中心に行う全体ミーティング、ユニット毎の会議が行われている。職員日々の努力に評価を職員同士が無記名投票で行い、上層部で纏め表彰する表彰制度を設けている。このことは職員のモチベーションの向上につながり、質の高い意見となって表れていると聞くことが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自己評価を行い、その後、代表者が総評を行い給与、賞与に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員共に、外部研修に参加する機会を設け意識向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が多数参加する研修に行き交流、情報交換、意見交換をし質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面談を行い、困っている事や不安を聞き、どのように支援をさせていただくか提案をし安心して入居していただけるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも事前に面談を行い、家族の思いを聞き、その思いに沿えるような支援方法を提案、相談をして家族にも安心してもらえるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要としている支援を見極め、ホーム以外の支援が必要な場合は他の事業所に相談、紹介をするようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来る事は維持継続が出来るように、出来ないことはあきらめず支援をして残存能力が低下しないように努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆が途切れないように、良きパイプ役となり繋げている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族が面会にきた際には、またいつでも面会に来やすいような対応をしている。家族と外出、自宅へ外泊の際には様子、状態をしっかりと伝えて安心して出掛けられるようにしている	家族と一緒に出来る行事を多く持ち、帰宅者の支援も含めてこの事が更に関係継続の良い支援につながるように心掛けている。面会時には職員も一緒に一時を過ごし、次回の来訪に繋げる役割を担っている。理容、美容院、掛かり付けの病院受診など馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、家事や会話をしながら交流をしている。関わりが難しい利用者は職員が間に入り孤立しないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族の相談に乗ったり、入院中の様子を聞いたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のこれまでの生活を職員全員が把握し、思い、希望、意向に沿えるように努めている。困難者の場合はこれまでの生活を把握したうえで思いや希望を推察し職員全員で検討している	理念に掲げている「心の目で見える」利用者の思いを受け止めていけるように、手製の手法が数多く備え付けられている。なかでも「キラリ じーン」手法では、職員が利用者の声なき行動に「何だろう」と心の目を向け、良い成果を上げている多くの実例を確認する事が出来た。2年前の評価訪問で洋行帰りの利用者が、このホームの生活を「ベリーグッド」と応答していやが、今回の訪問でも変わらぬ明るさと健康が保たれていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に本人、家族から話を聞くと共に、入居前に利用していた事業所、ケアマネージャーに話を聞いて得た情報を職員全員で共有し理解、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子、状態観察を行い、記録に残し職員全員が把握、共有でき、少しの変化にも気付けるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活がより豊かになるように本人、家族の要望はもちろん、必要に応じ医療機関にも意見を聞いた上でカンファレンスを行い、現状に適した介護計画を作成するようにしている	総括責任者が生み出した介護計画書に繋げる様々な手法がある。職員全員でカンファレンスを行い、担当職員が日常の暮らしの中で心の目を見た記録をまとめ、介護計画書の中に具体的目標として明記し、ケアで実践している。担当職員の意向の強い計画目標は現場で実践しやすく、「私の担当する利用者さんとして、更に心の目を養う作業に繋がっている」と聞いた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、バイタル、食事水分量、排便状況、介護経過がまとめて見る事が出来るようになっており、そこからの気づき、実践結果を職員全員で共有し、見直しに活かすようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により、ニーズが変われば、ニーズに沿った対応を家族と相談しながら考えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方、役所の方に情報を聞いているが、地域資源の活用はなかなか出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度、主治医が往診に来てくれているが、他科の受診が必要な場合には、主治医と本人、家族で相談し、適切な医療が受けられるようにしている	協力病院、提携医、中でもファミリークリニックからは24時間体制のサポートがあり、特に終末ケアにも深い理解と協力が得られているので、本人、家族、ホームにとっても大きな安心につながっている。また、訪問看護師も24時間体制をとり、医療対応の他、相談や勉強会にも協力してもらえる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師が来ている。様子、状態を伝え、情報を共有した上でアドバイスをもらい必要であれば医師へ繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、病院に情報提供を行う。入院中、面会に行き、本人の状態を確認するとともに、医師、看護師、相談員、家族と早期退院に向けた話し合いをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期についてのホームの方針は入居契約時に家族に説明をしている。医師からも終末期についての説明があるので、ホームで出来る事出来ない事の理解がより強まっている	過去2件の実践例では、職員の懸命な終末ケアの姿に医師が感銘し、ねぎらいにおことばを頂戴し、職員共々恐縮と感動を覚えたという実績の話は記憶に新しい。現在1名の終末期ケアは、長期入院の末、このホームに入所されたケースであるが、家族から「もう少し早くこのホームと出会う事が出来たら良かった」と現在の温かい終末ケアを受けられることに感謝の言葉を長坐位していると聞くことが出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜の緊急時マニュアルを作成し、職員全員の周知を徹底している。消防署員から応急手当や初期対応を学ぶ機会も作っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回訓練を実施している。職員は危機感と責任を持ち、積極的に訓練に参加している	ホーム全体の災害対策は関係機関、町内会等とも協力体制を築いている。地震に対する警戒心も強く持ち、全ての器物に倒壊防止の突っ張り棒を取り付ける等、利用者の命を守るきめ細かい対策を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が尊厳を守る事で、利用者が自尊心を失わないように努めている	このホームの在り方として貫いている「利用者一人ひとりの人間として心の目で見える」理念の奥深さを感じた。利用者の身体に触れる行為や丁寧な声掛けの実践を確認できた。入浴後の肌と頭髮の整容なども集団生活の中でのエチケットとして守っている事、義歯を扱う時の人の目を避ける、排泄介助でタオルでカバーする等臨機応変に尊厳を重んじる意識を持った対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望を第一とするために、日常的に会話をして自己決定の場面を作っている。自己決定が出来ない方は、職員本位にならないように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな流れはあるが、一人ひとりのペースを大事にするため、無理強いは決してしない。希望により、散歩に出かけたり、居室で横になったりして過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに衣替えを行い、季節に応じた好みの衣類を選択出来るようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がより楽しみなものになるように、フロアと一緒に食事を作ったり、盛り付けをしている。外食の際には、事前に食べたい物を尋ね、楽しみ期待が膨らむように心掛けている。	開設13年という歴史の中で、食べ残しなどに対する模索を重ね、昼食と夕食は専任の調理員が対面式で調理を行い、利用者の五感を刺激する事で食べ残しがなくなったという経緯がある。利用者が、「皆きれいに良く食べますよ」と話していた。職員の見守りの中で、安心して食事を勧めている光景があるが、楽しい時間帯としての一工夫を期待したい所である。	食事は、味を楽しむことと同時に楽しい雰囲気の中で行いたいと思うのは万人共通の願いであろう。食事中は静かに行儀よくという年代の利用者集団である側面があるが、食材にまつわる昔の思い出や調理していた事の思い出話をしながら楽しい食事の一工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録し、必要量が確保出来るようにしている。また体調、咀嚼、嚥下状態に応じて食事形態を変えるなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となっており、自分で出来ない方は介助をして口腔内の清潔保持に努めています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、排尿排便状況を把握し、一人ひとりに合った支援を行い、トイレでの排泄を続けられるように努めています	介護計画書にケア方針を明記し、気持ちの良い排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない利用者には、無理なく水分が摂れるよう、好みの飲み物を摂ってもらい、水分不足による便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後入浴可能なので、午後からの入浴を習慣としている利用者もおられるので、希望に沿い入浴を行っている	職員数を基準より増員し、安心してゆっくり楽しんでもらえる体制を整えている。入浴拒否者には言葉掛けやタイミングを計り、少なくとも週2回は実施して保清に努めている。入浴拒否者が多いと聞いたが、このホームは特に男性職員が多い特徴を活かし、真に楽しめる入浴の一工夫を期待したいものである。	入浴は清潔保持に止まらず、利用者と職員の一対一の時間帯がリビングでは話せない内容に発展していく楽しみの一時であると他の施設で聞いたことがあります。職員の一工夫を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は利用者がしたい時にしてもらっている。不眠が続く、心身に影響が見られた時には、職員全員で検討をし、必要に応じて医師、看護師に相談をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常に最新のものを職員全員が共有している。薬が変わった時には、特に注意深く様子観察をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性利用者は家事を自分の役割とし、意欲的に行っている。男性利用者は趣味のカメラで行事、外出時に写真撮影を役割とし、喜びを感じている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時には散歩に出掛けている。月に一度の外出は、季節を感じられる場所を選んでいく。家族と外食、買い物に行く利用者もいる	公園や商業施設などが整備された住宅街の中心地に存在するホームから気軽な外出が容易に実現できている。月1回は近くの名所を訪れ、外食を楽しんだりして喜ばれている。年間計画による外出は2ユニット合同で行い、交流を深めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っている。外出時など、本人から希望があれば、お金を使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙を自由にやり取りしている。職員が本人に代わり用件を伝えることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは不快を感じないように、整理整頓、清潔、適温を心掛けている。フロアは花や飾りで季節を演出している	リビングは狭いながらもソファコーナー、食卓コーナー等確保しており、その中で小型犬が利用者の間を行き来して和みを作り出している。リビングの椅子は各々の身長に調節できるので、大柄な男性も小さな女性も皆背筋を伸ばし楽な姿勢で過ごしている。この身長に合わせた姿勢保持の椅子の使用は、食事時の誤嚥防止を意図しているものであると伺った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルの座席の配置は、気の合う人、合わない人を見極めて、トラブルにならないようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具、道具は使い慣れた物を持ち込んでもらっている	許可を得て一緒に入室させてもらった居室のすぐ外は水田が広がり、「植え付けから収穫の全てが楽しめる」と利用者が話していた。備え付けはベッドのみで、その他の物は全て持込みだと聞いた。一人掛けソファが配置して或る居室もあり、マイルームとしての良い雰囲気が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮している。浴室、洗面所、トイレ、台所もわかりやすいので、自立した生活を送りやすい		